

# 大会に寄せられた メッセージ

2015年9月2~3日  
全学連 第76回定期全国大会

## 星野文昭

高崎経済大学出身

1971年11・14沖縄返還協定批准阻止闘争戦士

徳島刑務所在監、獄中40年

### 戦争法案粉碎・安倍打倒 全労働者人民のゼネスト決起の先頭にたとう

安倍が、命より金儲けの新自由主義の破綻を看破するために、戦争法案強行採決によって侵略戦争・世界戦争のできる国へ踏み出そうとすることに誰もが目覚め怒りあらゆる形で立ち上がる情勢です。この労働者人民と、労働者人民の団結した力がストライキ・ゼネストで安倍戦争法案を打ち倒し世の中を変える闘いが結びつく時、世の中が変わる。世界革命が可能な情勢です。

安倍の戦争法案強行採決は、全世界での帝国主義争闘戦、侵略戦争、世界戦争＝核戦争に油を注ぎ、同時に命より金儲けの新自由主義による労働者人民の生きられない現実のエスカレートに油を注ぐものです。

これに対する戦争法案絶対反対、安倍・自国政府打倒の闘い、新自由主義粉碎、生きさせろの闘いは、同じく戦争、新自由主義と闘う全世界の労働者人民とつながり、一つに闘うものになり、そのことによって、全世界の労働者人民が一つに団結し、闘いを発展させ世界革命を勝ち取っていく闘いを大爆発大飛躍させる展望を開いています。

このことにこそ、私達の勝利の道があります。大恐慌にのたうつ資本主義・帝国主義の延命をかけた争闘戦からはじき飛ばされる危機に追い立てられ焦り、絶望的に加わろうとするのが安倍の戦争法案です。特にそれは、結局その延命のための争闘戦、侵略戦争・世界戦争を激化拡大して、東アジア・中東・ウクライナを焦点に、日本・アジア・世界を戦争の地獄に叩き込んでいくものです。

### 全世界の労働者人民の団結を

だがそれは、全世界の労働者人民が一つに団結し決起し労働者人民が社会の主人公となって戦争・搾取のない人間本来の社会を実現していくことに転化していく情勢であり、その闘いを促進し実現していくのが私達の役割です。自衛戦争を容認し、抑止論を持って武力拡大に走れば、それは対立と軍拡競争をあおり、一触発の危機となり、軍事的衝突・戦争に発展することは歴史が教えています。

「自衛・存立」の名による自衛戦争、侵略戦争、世界戦争は、資本家によって階級が金儲けのために全世界を分割・私有化したのち、奪い合うために労働者人民に破壊と殺し合い・地獄を強いるものです。しかし労働者人民にとって全世界は、国境によって分割したり1%が私有化するものではなく、共有物として一つに団結して人間本来の共同社会をどこまでも発展していくものとしてあります。

### 労働者が主人公となって人間本来の共同社会を

国境を越えた労働者人民が一つに連帯・団結し、個々の自国政府とすべての資本家・支配階級を打倒し、戦争・搾取の根を断ち、全てを労働者人民の下に奪い返し取り戻し、労働者が主人公となって人間本来の共同社会を発展させる道を開きましょう。資本主義・帝国主義が搾取収奪の末に手に余るほど巨大化した過剰資本を抱え込み、大恐慌を生み、唯一の恐慌対策に金融緩和＝バブル化によって破滅へ向かう中で資本家・国家間の死闘を激化させ、さらに絶望的に命よりも金儲けの新自由主義によって団結を破壊、民営化・外注化・総非正規職化、生活破壊・原発・沖縄・三里塚などを更に激化し労働者人民が生きられなくし、労働者人民を殺し合わせる戦争の地獄さえ強いようとしていることに対する怒りと決起は日本はもとより、韓国・ギリシャ・全世界に満ちています。

この怒りと決起と結合して、その労働によって全てを生み社会を動かしている労働者人民が、国境を越えて一つに団結し立ち上がり闘いを発展させれば、あらゆる攻撃を打ち砕き、資本家を打倒して全てを奪い返し、労働者人民が社会の主人公となって人間本来の共同社会を発展させていくという、国鉄を先頭とする国際連帯・階級的労働運動の大前進を勝ち取ろう。動労総連合・全学連を巨大に建設し、職場・学園・地域に闘う拠点を建設し、1000万人署名・行動、ストライキ、ゼネストを組織して、戦争法案粉碎・安倍打倒、戦争・新自由主義粉碎・世界革命を勝ち取っていこう。

### 国鉄・星野の闘いは一つ

国鉄・星野の闘いは、スターリン主義、社民のくびきを乗り越え、労働者人民の自己解放・団結の力で世の中を変えようとする60年70年の闘いとその発展を左から殺して、労働者人民から全未来、全てを奪おうとした攻撃に対して、これに屈せず、全てを奪い返し勝利しようという闘いでした。

全てを奪う、生きる意志さえも奪おうという過酷な攻撃であっても、人間としての労働者人民としての誇り、その人間性、共同性、存在そのものをゆずり渡さずそれらをかけて絶対反対で闘うこと、そこにおいて自らと家族、全ての労働者人民の人間性、共同性、それに根ざした絆・愛、団結を信頼して、それに依拠し、それを拡大・発展させることによって闘い勝利していく。それによって全てを奪い返ししていくそのような闘いでした。この闘いが今、戦争と新自由主義と闘う全ての労働者人民の怒りを解き放ち、勝利を勝ち取っていくものになっています。

### 再審・釈放をかちとり相まみえましょう

戦争に反対し闘ったことを理由に、権力が無実を百も承知で無期を強い40年投獄していること。それに対して、自らと家族全ての労働者人民を信じ、その絆・愛、団結を拡大・発展させ日々勝利していく闘いは、今日での絵画展、街宣、オルグなどで感動的

に闘われているように、今、怒り決起する全ての労働者の怒りを解き放ち、勝利を勝ち取っていくものになっています。 そのように星野闘争を闘い、100万人全証拠開示署名を勝ち取り、再審・釈放をかちとり、闘いの渦中で相まみえましょう。

沖縄大、京都大、東北大での「ゼネスト執行部」の樹立を先頭に全日本大学反戦ゼネストをかちとり、戦争法案粉碎・安倍打倒の全労働者人民のゼネスト決起の先頭にたとう。

## 田中 康宏

### 国鉄千葉動力車労働組合 執行委員長

第76回定期全国大会の開催を心よりお祝い申し上げます。

また日ごろのご支援・ご協力に厚く御礼申し上げます。

時代が大きく動き始めています。安倍政権の戦争法案をめぐって動と反動が激しくぶつかり合い、労働者・学生、沖縄、社会全体が一斉に立ちあがり始めています。

30年に及ぶ新自由主義政策は、「社会崩壊」をもたらし、安倍の成長戦略はそれを一層加速させています。原発事故は隠蔽され、福島見殺しの帰還強制、再稼働に踏み切り、再び原発政策に突進せんとしています。

大学に対しても成長戦略の一つとして「大学改革」が位置づけられ、軍事研究への協力、国旗・国歌の強制、人文系学部の廃止、経済的徴兵制への布陣など、戦後の大学自治、学問の自由、真理の追究のあり方を根底から解体し、戦争体制に動員しようとしています。

生きていくことができない怒りの声、矛盾の爆発はいよいよこれから噴き出そうとしています。国会を連日とりまく怒りはその表れです。この声と結びつき、こんな社会のあり方を労働者の団結した力でひっくり返していかなければなりません。そして、その先頭に立つ全学連こそ面目躍如たるところと期待します。

国鉄分割・民営化から30年、国鉄闘争が闘われ続けたことによって、労働法制の解体や民営化攻撃、改憲・戦争国家化の攻撃を阻み続けてきたことが今、安倍の政策と一体の攻撃となって真正面からぶつかり合っています。この国鉄闘争を終焉させたい一心で、最高裁は国鉄1047名裁判のJR採用差別事件の上告棄却の決定を行ってきました。絶対に許せません。闘いはまさにこれからです。

JRでは、連日、重大事故が続発しています。安全を保持する技術も風土も崩壊しています。私たちはは戦争法案阻止の闘いととも、10・1外注化・出向期間3年の期限切れをめぐる攻防、11・1千葉運転区廃止反対の闘い、外注化・非正規職化攻撃、反合・運転保安確立の闘いで全力で立ち上がります。

戦争の危機の切迫の中で、今年の11・1労働者集会は、国際連帯闘争の新たな発展の

中で開催されることとなります。大結集をぜひともお願いします。

戦争法案阻止！ 戦争と民営化の安倍政権打倒！ とともに闘いましょう。

貴大会の大成功を心より祈念いたします。

## 石井 真一

### 国鉄水戸動力車労働組合 執行委員長

第76回定期全学連大会の成功を祈念すると共に、動労水戸から心からの連帯のメッセージを送ります。

安倍政権は、人民の支持を得られないまま政権にしがみついています。集団的自衛権行使閣議決定から1年が経過し、7月15日衆議院で安保戦争法案を強行採決しました。その事が、人民の怒りに火を注ぎ、あらゆる場で弾劾されています。

8月6日広島で、8月9日長崎で、被爆者から「再び戦争をするのか」「また被爆者をつくるのか」「またこんな苦しみを若者にさせるのか」と徹底して弾劾されています。また8月14日の安倍の70年談話は、弱々しく侵略戦争を開き直すことしかできませんでした。まさに打倒されているとしか言えません。

歴代自民党政権は、労働運動解体と新自由主義・非正規労働を一体的に推進してきました。その始まりは国鉄分割・民営化であり、国鉄労働運動解体にすべてをかけてきました。しかし、国鉄闘争は動労千葉、動労水戸を先頭に闘いが継続され、6月30日最高裁で動労千葉鉄建公団訴訟が棄却されたとはいえ、1047名解雇が不当労働行為であったことが確定しました。30年闘われ、ついに国鉄改革法が違法であったという国鉄闘争勝利の地平を確立したのです。

安倍総理は、6月26日U A ゼンセンの逢見直人と密会し、連合解体に手を付けようとしています。連合的なあり方さえ許さず、侵略戦争賛成、徴兵制賛成のU A ゼンセン逢見と手を組もうというのです。6月30日動労千葉鉄建公団訴訟棄却の日には、JR会長大塚や富田社長と面会しています。動労千葉を叩き潰し、国鉄問題に終止符を打つことを伝えたに違いありません。その時吐血したと報じられています。安倍総理の後には、自民党を担う者は誰もいないのです。とてつもない危機に、日本帝国主義は追いつめられています。

今侵略戦争を目の前にして、学生がどのように行動するのかにかかっています。特に全学連が、戦争か革命かの時代にどのように学生に訴え、どういう方針を出すのかにかかっています。「シールズ」のように安倍打倒を言わないで、平和と民主主義を確立するなど空論であり、むしろ学生の目を曇らせるものでしかありません。そんなインチキに負けず、革命を断固訴えて共に闘おうではありませんか。

動労水戸は、8月29日いわき集会とデモから、常磐線全線開通反対、帰還と被爆強制

を許さない闘いを開始します。JR東日本は、すでに浪江～富岡駅間という最も原発に近い箇所を調査と称して工事に入っています。新聞では高い箇所は、30 $\mu$  Sv/hと言っていますが、原発周辺で働く人は80 $\mu$  Sv/hと言っています。とんでもない事です。

動労水戸の闘いが火花となり福島に怒りに火をつける、そしてゼネストを担う動労福島の結成につながると確信しています。全学連のみなさん共に闘いましょう。

## 北島邦彦

### 元杉並区議会議員 東京西部ユニオン副委員長

いまや世界はリアルな戦争情勢に突入しています。これを革命情勢とつかむ時代認識をもつことができるのは、私たち革命的共産主義運動しかありません。「戦争情勢だ！」とは、日本共産党スターリン主義も体制維持・容認派も言うでしょう。しかし、だから「革命だ！」と行動を始めなければ、時代は「茶」か「黒」の色彩にしか見えないのです。私たちの眼前にあるのは、多様な色彩をもった革命の時代です。

だからこそ、1000万人とつながる私たちの構え・姿勢が求められています。私たちの発する言葉の一つひとつ、行ないの一つひとつが問われます。これまでにない柔軟な考えと行動は、若い世代の人たちのなかにこそ豊富にありますし、それを実践する大胆な決断もできると思います。革命的共産主義運動の新しいフィールドを開拓していきましょう！

1000万人とつながる私たちの闘いは、だからこそ激烈な党派闘争を不可避とします。その核心はスターリン主義との大闘争です。革命的共産主義運動は、反スターリン主義を綱領的に確立していく闘いでした。いま、組織的にも運動的にも、日本共産党スターリン主義を真正面から批判し、打倒していくべき時がやってきました。1930年代スターリン主義によって背後から絞殺された国際共産主義運動を、階級的労働運動と労働者階級の国際連帯で克服する闘いです。

安保法制強行をねらう危機に立つ安倍政権を打倒する闘いは、日本共産党スターリン主義の打倒なくしてありえません。来年7月には参議院選挙が執行されます。東京選挙区は定員5が6に増え、18才以上の選挙権が生じます。革命的選挙闘争をさらに推進し、日本共産党スターリン主義を吹っ飛ばすチャンスでもあります。ともに闘いましょう！

## 三浦正子

### 婦人民主クラブ全国協議会代表

階級的団結の力で、戦争も原発もなくす。この根底からの社会変革の先頭に学生がた

ち牽引している。なんと希望と明るさにみちあふれたことでしょうか！

心からの感動と期待をもって、全学連大会の成功をお祝いします。

大学に自治会をつくり、ストライキで大学を学生自身の手にとりもどす！ 学生の怒りと力を信じて進む姿勢に連帯します。

私たち婦人民主クラブ全国協議会は、8月に第32回全国総会を成功させ、階級的団結を組織する先頭にたつことをあらためて宣言しました。女性は「弱い」「庇護すべき」存在ではありません。帝国主義者を震え上がらせてきた団結の主体となる存在です。婦民はあらゆるところからその団結を組織します。

8月24日、婦民会館のある相模原で、米軍補給廠の爆発事故がおこりました。補給廠は婦民会館の眼前、爆風で窓ガラスが揺れました。度重なる事故は「基地は住民を守らない」ということを、住民の心に焼き付けています。共に、爆発事故弾劾！戦争法阻止！の9・3相模原集会&デモを大成功させましょう。

相模原の戦車阻止闘争（1972年）では、基地労働者との団結でベトナムへの戦車をとめました。労働者が組合に団結して闘えば戦争はとめられます。全学連の先鋭な闘いに学んで、婦民全国協も「戦争を革命へ」とたたかいます。

## 全国水平同盟

第76回全学連定期全国大会おめでとうございます。

戦争法案粉碎・安倍政権打倒の闘いは、8・30国会を包囲する12万、全国で100万の大闘争に発展しています。その渦中で開催される今大会は、全学連運動の歴史を画するものとなり、時代の先頭に全学連が躍り出る出発点になるでしょう。

青年・学生が歴史を切り開く時代が到来しました。今、戦争法案への怒りが何十万、何百万人の立ち上がりを生んでいます。多くの青年・学生が、どのように生き、どのように自分自身で未来をつくるのか、悩み考え行動を求めています。この立ち上がりに恐怖し、体制内に閉じ込めて圧殺しようとするスターリン主義と徹底対決し、青年・学生の怒りを解き放ち、帝国主義打倒の闘いの道筋を明らかにできるのは、全学連の他にありません。

私たちは、今大会が掲げる全国学生の全学ストライキの方針を断固支持します。大学が学生を縛り付けている「授業・就学・奨学金」の鎖を解き放ち、実力でたたかい、ストライキで学生自治会を復権し、時代を切り開きましょう。

私たち全国水平同盟は、部落差別との闘いを<労働者自身が奪われた労働の誇りを取り戻し、差別分断を超えて階級性と人間的共同性を復権していく>たたかいと考えています。労働者がゼネストに決起し、帝国主義社会を根底的に転覆する闘いが現実のものとなる時、階級を分断してきた部落差別はじめ、あらゆる社会的差別を打ち砕くことが可能になります。ゼネストをたたかきましょう。

全国水平同盟は、全国で「生きさせろ！」の闘いに立ち上がっています。新自由主義による部落の更地化、資本のための住民追い出し攻撃にたいして、安倍政権と真っ向から対決して闘っています。西郡では強制執行攻撃を打ち破った勝利の地平に立って国賠裁判に打って出ています。高槻では植木団地つぶしに対し労働組合をつくって「自主管理闘争」を闘っています。京都の崇仁・東三条がこれに続いています。まさに「一点の火花が燎原を焼きつくす」ように、闘う団結の拠点が全国に拡大しています。また、狭山闘争の解体・変質攻撃にたいして、階級的労働運動の力で狭山闘争を階級的に復権し勝利する闘いが力強く前進しています。

これらの闘いは、全学連のみなさんと共に、闘いとしてきたもの です。全国水平同盟は、人間として、階級としての誇りと団結を堅持し、ともに闘って行きます。

全学連大会に結集した全国の学生の皆さん、すべての大学に自治会を建設し、ストライキで闘いましょう。激動期こそ、青年。学生が輝く時です。9月決戦に勝利し、11月に向かってゼネスト情勢を切りひらいていきましょう。共に闘わん！

## 織田陽介

### すべての原発いますぐなくそう！全国会議 事務局長

全学連第76回定期全国大会おめでとうございます。

8月11日10時30分、鹿児島川の川内原発1号機の再稼働が強行されました。「原発の影響ではない」と切り捨てられている福島127人の甲状腺がんの子どもたちの悔しさと憤り。再臨界の危険の中で命がけて働く福島第一原発の収束作業員の誇りと怒り。3・11に学び、声をあげてきた私たちの決意。その一切を踏みにじる暴挙であり、絶対に許すことはできません。

「震度5弱には達しない」「巨大噴火が起きれば九州は壊滅する。原発の問題ではない」（田中俊一規制委員長）などと30年を超える老朽原発を稼働させた。ただちに復水器の細管の破損により海水が混入する事故が起こり、出力上昇が延期される事態になっています。4年間も停止していた原発を再稼働するのは世界で14例しかなく、そのすべてがトラブルを起こしている。にもかかわらず、九州電力は止めようとしません。原発即時停止、廃炉に向かって、強く強く声をあげていきましょう。

広島・長崎では、安倍首相への怒りが叩きつけられました。「核兵器の運搬も理論上は可能」なる国会答弁をしておいて「非核三原則は堅持する」なんて誰が信じるのか。毎年「戦争だけはダメだ」と訴え声をあげ続けてきた被爆者、日本の労働者・市民の思いをすべて踏みにじる強行採決から、戦争に踏み出そうとする安倍首相。それに対して立ち上がる膨大な人々。本当に歴史を動かすような闘いが始まっています。法案をめぐる国会攻防、原発再稼働。政権を崩壊させるような事態を次々作る以外に安倍は進めな

い。今こそ安倍政権を本当に倒そう。

川内の次は伊方3号機、高浜3・4号機など、プルトニウムを燃やすプルサーマルの原発の再稼働がもくろまれている。青森・六ヶ所再処理工場は、1年で8トンものプルトニウムを取り出すことができる。長崎型原発1000発分です。

「戦争できない国はうちだけ」の次にくるのは「核兵器を持っていないのはうちだけ」という論理に決まっている。絶対に許してはならないと思います。

9月5日に狙われる檜葉町の避難区域解除に対し、「帰還と被曝の強制許すな！ 8・29いわきデモ」が闘われました。高線量、水道水も飲めない、病院も仕事もない所に補償まで打ち切ったの帰還強制。JRは「常磐線全線開通」を掲げてその先頭に立とうとしている。動労水戸は、ストライキで反対の声をあげています。原発労働者もこのデモに合流。被曝労働を許さない闘いは、「原発も被曝強制もストライキでとめよう」という新しい労働運動を作り出しています。

JR東海の葛西敬之名誉会長は「地方創生は撤退戦から」「福島は選択と集中のチャンス」「広野と檜葉に投資を集中させる」などと言い、双葉・大熊・浪江・富岡は切り捨てろと主張しています。安全神話で国策を進め、事故が起きれば自治体ごとつぶせ？一度でも責任を取ってみろと言いたい。5兆円も軍事費に使う金があるなら福島に使うべきではないか。公共サービスも福祉も切り捨てて戦争に「集中」、福島はむしろそのチャンスだと主張するこの政策は絶対に許せない。

被曝労働の現実を見てください。この資本主義社会がいかに非人間的な社会であるか！収束作業員の危険手当はピンハネされ、4次・5次の下請けで非正規労働者に突き落とされる。命がけてこの国の労働者・市民を守る収束作業員から搾取し儲けるこの現実一体なんなのか！放射線への防護も教育もけちり、死亡事故が相次いでいる。

一方で社会の主人公でありながら、労働力を売る以外に生きられない、この労働者の現実の上にこそ、戦争や原発が強制されてきたのです。安倍は、労働者が1000円をどれだけ苦勞して稼いでいるかを知りもしない。労働者が働かなければお前らの生活など1秒も成り立たないんだ、俺たちが社会の主人公だと、ストライキでたたきつけようじゃないですか。

原発再稼働には、被曝労働がついてまわる。避難計画にも自治体や交通、医療などの労働者が組み込まれた。戦争をめぐるのは、戦争教育への転換、社会福祉を切り捨てる自治体への転換。すべての職場が闘いの焦点であり、今こそ闘う労働運動をすべての職場からつくり出すときです。戦争と原発の問題が、すべての職場の戦時的転換の攻撃に迫られているように、大学キャンパスも戦時型の大学への大転換の時を迎えていると言えます。それは、大学とは何か、学生とはどうあるべきかを、資本主義の根本的な矛盾との闘いを通して問うような明確な時代への突入であり、動労千葉労働運動と反合・運転保安闘争をすべての職場・キャンパスに継承していくまたとない好機でもあります。歴史的な戦後70年、歴史的な闘いを私たちが作り出せるのか否かが歴史の分岐

点です。

被曝労働拒否、戦争協力拒否の闘いで、労働者が主人公の社会を今こそ作ろう。職場での分断と競争ではなく、仲間とともに働き生きる人間らしい社会を！ 安倍を倒して社会を変えよう。

労働組合・学生自治会が先頭にたつて、帰還強制を許さず闘おう。全国の避難者を守り共に闘おう。ふくしま共同診療所とともに、「避難・保養・医療」の原則で、内部被曝と闘う反原発闘争をトコトン闘い、川内原発即時停止・全原発廃炉を絶対に実現しよう。

いま、戦争情勢に若者・学生が立ち上がり、時代の先陣を切り開いていることが、この社会を人間らしく生きられる社会へ変える革命への希望です。「戦争行くななんてまっぴらごめんだ」と当たり前前に叫び、「だったら俺らを変えてやる」と闘う姿に、感動し触発され、労働者がまた決起するのです。ともに闘いましょう！

## 飯田英貴

### 全国労働組合交流センター事務局長

全学連の仲間の皆さん！ 第76回定期全国大会の開催おめでとうございます。

8月30日の安保法制粉碎・安倍打倒の12万人の国会闘争、全国300ヵ所での100万人に及ぶ労働者人民の決起は、戦後最大規模の反戦闘争・政権打倒の闘いとして爆発し、文字通り歴史を変える闘いとなりました。安倍や国家権力と一体となった日本共産党スターリン主義や連合指導部のあらゆる規制を突破して、国会前は解放区となりました。ついに開始された労働組合の決起が12万の決起を根底で支え、その先頭に国鉄千葉動力車労働組合（動労千葉）が立ちました。こうした情勢をつくり出したのは、日本共産党との党派闘争を全力で闘った全学連の仲間達の先進的な闘いであったと確信しています。

私たちは労働者と全学連がともに闘うゼネラルストライキで、戦争を阻止し、この社会を変えようと訴えています。職場で資本と非和解で闘うことを軸とした階級的労働運動と国際連帯闘争によって戦争を止め、戦争を生み出す社会そのものを変える、これが日本共産党との決定的違いです。

これは、戦後階級闘争の歴史的決着をかけた闘いです。1950年に始まった朝鮮戦争で、日本企業は軍服から弾薬まで、米軍に売りまくって「朝鮮特需」で莫大な利益を上げました。経団連初代会長の石川一郎は1952年9月、経団連総会において「生活水準の上昇率は若干これを犠牲にしなければならない。防衛生産は当分の間、日本の経済補完のため、大きな支柱となる」と訴えています。敗戦からわずか7年半で経団連は日本の再軍備を構想し、軍需による経済成長を狙っていたのでした。今も同じです。この「朝鮮有事」こそ、安倍の戦争法案の核心に他なりません。

いまひとつ決定的なことは、1950年の朝鮮侵略戦争に向かう過程で、1947年に2・1ゼネストが組織されますが、日本共産党は直前にスト中止を宣言します。スト中止を宣言した伊井弥四郎は国鉄労働組合の指導部でした。日本共産党は「GHQや吉田内閣（当時）と闘っても勝てない」と言って労働者の闘いを解体し、さらには「いまGHQと闘えば日本も朝鮮半島のようになる」というとんでもない排外主義のなかで国際連帯闘争を解体していったのです。

しかし、日本の労働者階級は、こうした日本共産党の裏切りと屈服を乗り越えて、日本帝国主義の戦争・改憲攻撃と真っ向から闘いぬいてきました。

全国労働組合交流センターは、1989年、国鉄分割・民営化に反対して唯一ストライキで闘った動労千葉のもとに、反連合・反全労連を掲げ、階級的労働運動の復権をめざして独自の闘いを開始しました。今こそ、その真価を発揮する時だと決意しています。その核心は、動労総連合を全国につくり出す闘いです。そして、全国のJRの職場からストライキを闘うことです。この闘いは必ずや全国の労働者の心を揺さぶり、日本におけるゼネストの号砲となることは間違いありません。これが、パククネ打倒の民主労総ゼネストと結合し、東アジアから労働者の革命が始まる。そういう壮大な闘いにうって出たいと思います。

9・13国会闘争から、10・21国際反戦デー闘争、そして11・1全国労働者集会の1万人結集に向かってともに闘いましょう。

## 仲宗根光洋

### 日本IBM・ビジネスサービス労働組合 書記長

第76回定期大会の開催おめでとうございます。沖縄より心からの連帯のメッセージを送らせて頂きます。

去る8月14日に侵略戦争を賛美する『安倍談話』が発表され、安保法案と一体で派遣法・労働法改悪が行われています。経済界・安倍政権は総非正規化の中で労働組合を壊滅・絶滅し、全労働者を貧困に陥れた上での経済徴兵を視野にいれ戦争政策を推し進めています。明らかに社会情勢は激変し、戦争を阻止する為にはますます労働組合の存在と団結、そして、絶対に戦争をさせないという学生の決起と学生自治会の闘いが重要となっています。

学生や青年労働者は、総非正規化が進むことで将来の展望を失くし、日々生きていくことが困難になってきています。更に安倍政権や資本家が侵略戦争を始めてしまえば、自分達の命が危険に晒されるだけでなく、他国の労働者を殺すことになってしまう。一人の青年労働者に本当に『ふざけんな！』っていう怒りでいっぱいです。

こういった怒りをもった多くの学生や青年が戦争絶対反対であると国会前に連日駆け

つけ、全学連のデモや集会に結集し団結が拡大していると、『前進』の報道や全学連のニュースで知るたびに嬉しく思います。やはり、そういった学生や青年の怒りを、真っ向から受け止めて一緒に闘えるのは、我々のような闘う労働運動・学生運動を実践する労働組合や学生自治会しかないのだということです。

ですが、そういった闘いの前進に対する反動としてSEALDsという唾棄すべき存在が出てきたことに対して私は全力で怒りを覚えます。SEALDsの発言内容や行動などは、まさしく労働者の団結の力を信じていない連合に代表される体制内労組そのものだったからです。そして、もっと許せないことにSEALDsは沖縄県にも『SEALDs RYUKYU』という組織を、8月15日の終戦記念日につくったことです。「70年間戦争をしなかった日本」という間違った歴史観のSEALDsが、70年間ずっと米軍基地が居座り続け、毎日戦闘機が飛び回り、米軍による事故や犯罪の危機に晒されてきた沖縄県でどう闘うというのか、沖縄の学生・青年の決起を潰す結果にしかならないのは明白です。

やはり、私達のような青年労働者や学生、全国的に言えば動労千葉を先頭とする動労総連合や全学連、沖縄で言えばI J B S労組や沖縄大学学生自治会が固く連帯し、戦争絶対反対で怒りに燃え決起した労働者・学生と一緒に闘う同志として獲得していくことだと思います。労働運動・学生運動は、動 - 反動 - 動の繰り返しですが、一人でも団結を勝ち取れば圧倒的な勝利なのです。

これからも共に、ゼネスト＝革命へ向けて固く連帯して闘い続けましょう！！

## 椎名 千恵子

### 3.11反原発福島行動実行委員

3・11以来、福島はすでに「戦場」です。

小さな子どもの体が、甲状腺がんと日々刻々戦い続けています。

「結婚できるのか、子どもが産める体なのか？」言えない悩みが悩みを押し殺して、それでも未来をつかもうと、受験勉強に勤しむ女子の姿は健気な闘いそのものです。

北茨城の子どもの甲状腺がんの罹患率が、福島の3倍という実態がお母さんたちを愕然とさせています。

こうした福島を切り捨て、世界の青年労働者達に殺し合いを強制する戦争を煽動する安倍政権は、いのちの敵、全人民の敵以外の何物でもありません。

国家と資本、1%の存在の矛盾のツケを、戦争にもって行かざるを得ないこの社会そのものを変える以外にないのです。その刻が来ています。「革命」以外にありません。

全学連のみなさんが、大学内あるいは国会前行動で悠然と、「天真爛漫に」そのことをもっともっと語ってください。

「すべての人間が人間らしく生きていく社会を、奪い返す」、絶対反対の精神で、ゼ

ネラルストライキで闘う労働者と並んで社会を変えよう！その訴えと体現は、巨万の人々の魂を捉え、これまで以上に、陸続と人々が結集し始めることでしょう。

私たちのこの壮大で真実にみちた闘いが、負けるわけがありません。福島とともに頑張りましょう。

70年代の頃の全学連の果敢な牽引力により、変動情勢を駆けぬけた一人として、確信と希望をもって、このメッセージを送ります。